

# 岡山市立公立学校教員募集案内 「私、岡山市の先生になる」

自立する子どもたちが育つまち 岡山市  
情熱のある先生がいるまち 岡山市  
そんな岡山市で先生になるのが私の夢！！



平成30年度初任者研修(宿泊研修)より

岡山市教育委員会



岡山市では、生涯を通して

「教育に対する揺るぎない情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」  
を磨き、学び続けることができる教員を求めています。

多様な社会の変化の中で、岡山っ子が様々な経験を通して成長していくためには、  
その『道しるべ』となる先生が必要です。

岡山市の先生は、学力向上や生徒指導など様々な課題に対して、先生個々の力を生かしつつ  
『チーム学校園』として支え合い、高め合いながら、日々の教育活動に励んでいます。

そんな先生たちと一緒に、岡山っ子のために、そして自分自身の成長のために、  
岡山市の先生として一緒に働きませんか。

このリーフレットには、岡山市の教育や学校の様子、先輩教員からのメッセージなどを紹介しています。

「岡山市の先生になりたい…」そんな思いをもつ「あなた」が必要です。

きっと、あなたの情熱が岡山市の教育をさらに成長させてくれることでしょう。

岡山っ子が「あなた」を待っています。

## チーム学校園

岡山市の学校園では、「チーム学校園」という考え方を大切に、子どもに関わる全ての教職員で教育活動に当たっています。校園内での研修(OJT)によって、教職員がお互いの資質・能力を向上させるとともに、学校園のマネジメントを強化し、校長のリーダーシップの下、教職員が互いに連携し、様々な教育課題に対応しています。家庭や地域社会に支えられた「チーム学校園」としての組織全体での対応は、「信頼される学校園」「信頼される教職員」につながり、教育活動を進める上で、教職員一人ひとりの能力をより発揮することができます。



平成30年度初任者研修より



### 学校数、児童・生徒数、教職員数

校種	学校数	児童生徒数	学級数	校長・教員	養護教諭 養護助教諭	事務職員	栄養教諭 栄養職員
小学校	91※	37,565	1,573	2,047	103	109	34
中学校	38	17,347	620	1,111	44	48	26
高等学校	1	469	18	38	1	3	0
合計	130	55,381	2,211	3,196	148	160	60

※小学校の学校数には2分校を含む 平成30年5月1日現在

### 学校を支えるスタッフ

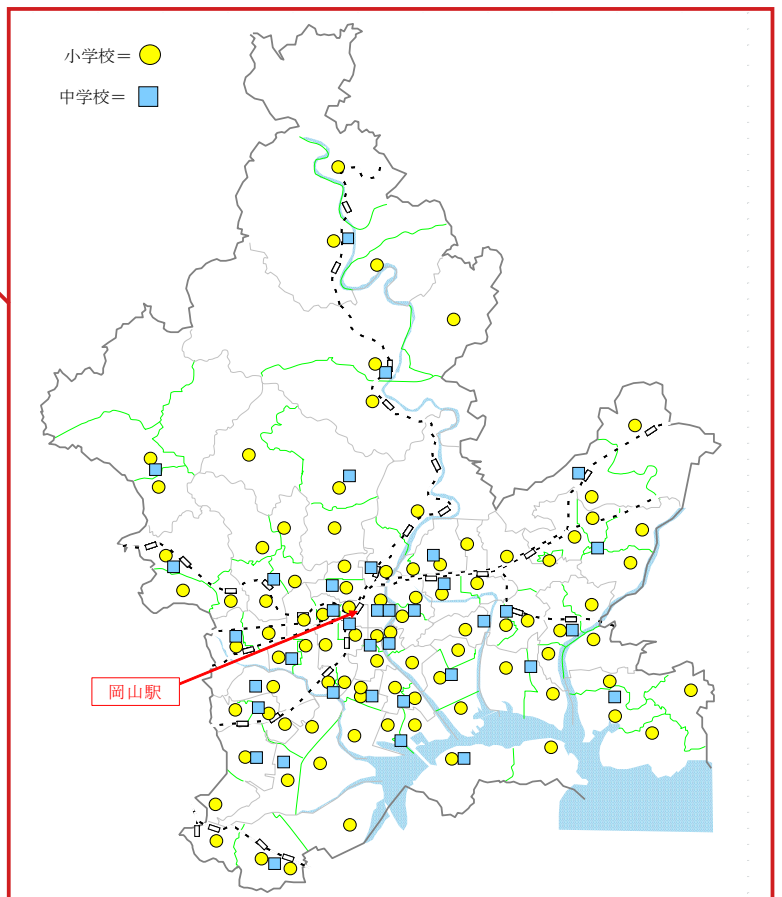
- 非常勤講師
- 給食調理員
- 不登校児童生徒支援員
- 習熟度別サポーター
- 学校用務員
- スクールカウンセラー
- 岡山っ子スタート・サポーター
- 外国語指導助手
- 部活動外部指導者
- 学校業務アシスト職員
- 観察実験アシスタント
- 学校支援ボランティア など
- 学校司書
- 特別支援教育支援員

### 岡山市立学校の所在地



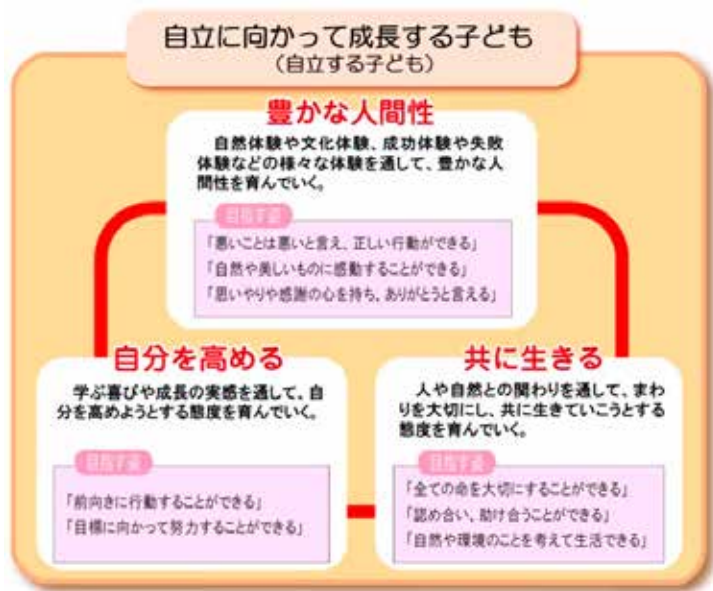
岡山市は岡山県の県南に位置し、瀬戸内の温暖な気候と豊かな自然に恵まれたまちで、平成21年4月、全国で18番目の政令指定都市に移行しています。公立学校は130校で大規模校から小規模校まで様々な規模の学校がありますが、どの学校も地域との連携を生かし、子どもたちの実態に応じた特色ある教育活動を展開しています。

また、岡山市の公立学校では、約5千人の教職員が子どもたちの教育に携わっています。その中には、教員だけでなく、学校生活の様々な場面で子どもたちを支える多くのスタッフも含まれています。



目指す子ども像

▶ 自立に向かって成長する子ども(自立する子ども) ◀



情報化やグローバル化といった急速に変化する社会の中で、自らの可能性を発揮できるようにするためには、自立に向かって成長していくことがより一層求められます。

自立に向かって成長する子ども(自立する子ども)とは、豊かな人間性を身に付け、自分を高めるとともに、共に生きることができるよう自分自身を確立していく子どものことです。

子どもたちは、様々な体験を通して、社会の一員としての倫理観や正義感、自然や美しいものに感動する心、思いやりの心や感謝の心などの「豊かな人間性」を育みます。また、学ぶ喜びや成長の実感を通して、自らの可能性を信じ、目標に向かって努力を重ねていく「自分を高める」態度を育みます。さらに、人や自然との関わりを通して、全ての命を大切に、自分や他者との違いを理解して協調するとともに、自然や環境とも調和していく「共に生きる」態度を育みます。

これらを発達段階に応じてバランスよく育んでいくことで、将来、自らの力を発揮し、仲間と共に社会に貢献することができる人へと成長していきます。

目指す教職員像

▶ 情熱、力量、人間力を有し、学び続ける教職員 ◀

岡山市は、教職員に求める資質能力として「教育に対する揺るぎない情熱」「教育の専門家としての確かな力量」「総合的な人間力」を掲げています。

「教育は人なり」という言葉がありますが、「教育に対する揺るぎない情熱」は、教育に夢と希望を持ち、子どもたちとともに成長する中で、より良い指導者であるよう常に努める姿勢から生まれてきます。

また、子どもたちへの確かな学力の定着や一人一人に応じた的確な支援を行うには、「教育の専門家としての確かな力量」を備えるとともに、その力をいかに発揮することが求められます。さらには、子ども、保護者、地域社会あるいは仲間の教職員と信頼関係を築き、互いにつながり合うことのできる「総合的な人間力」が不可欠であると考えます。

これら三つの資質能力をバランスよく兼ね備えるとともに、生涯を通して、自らの資質能力を磨き、学び続けることができる教職員であることが求められます。



中学校区を単位とした  
学校園一貫教育  
～岡山型一貫教育～

中学校区を単位とした学校園一貫教育～岡山型一貫教育～とは、岡山市で進める中学校区ごとに指導方針を一貫させた教育のことです。教育委員会のリーダーシップの下、同じ中学校区にある学校園の教職員が子どもたちの状況をしっかりと見つめ、目指す子ども像を共有し、異校種がつながることでの良いところを取り入れ、発達段階に応じて継続的に指導します。特に就学前教育と小学校教育、小学校教育と中学校教育等の間の不要な段差を解消することで、小1 プロブレムや中1 ギャップといった課題を軽減するとともに、子どもたちが身に付けた学力や豊かな心などを将来の生活に生かし、自立へと導きます。なお、地域の実態に合わせて中学校区内の公私立の幼稚園や認定こども園、保育園との連携を進めることで、より一層効果を高めていきます。

岡山市地域協働学校  
(コミュニティ・スクール)

岡山市地域協働学校は、学区ごとの運営協議会を主体として保護者や地域住民などが、一定の権限を持って学校運営に参画する仕組みです。中学校区を1つの地域と見なして、家庭、学校園、地域社会がそれぞれの役割を果たしながらつながり、自立に向かって成長する子どもを持続的に育てていくという理念に基づき、運営していきます。

この仕組みを導入することで、学校園は保護者や地域住民に対する説明責任の意識が高まります。一方、保護者や地域住民は、学校教育の成果について、一人一人が責任を負っているという自覚と責任が芽生えます。この相乗効果により、子どもたちをより良く育てていくことができ、子どもを核とした地域づくりにつながります。

岡山市の教育が目指す  
市民協働の人づくりのイメージ  
(学校園版)

岡山市教育委員会



未来へつながる教育(ESDの視点を取り入れた計画の推進)

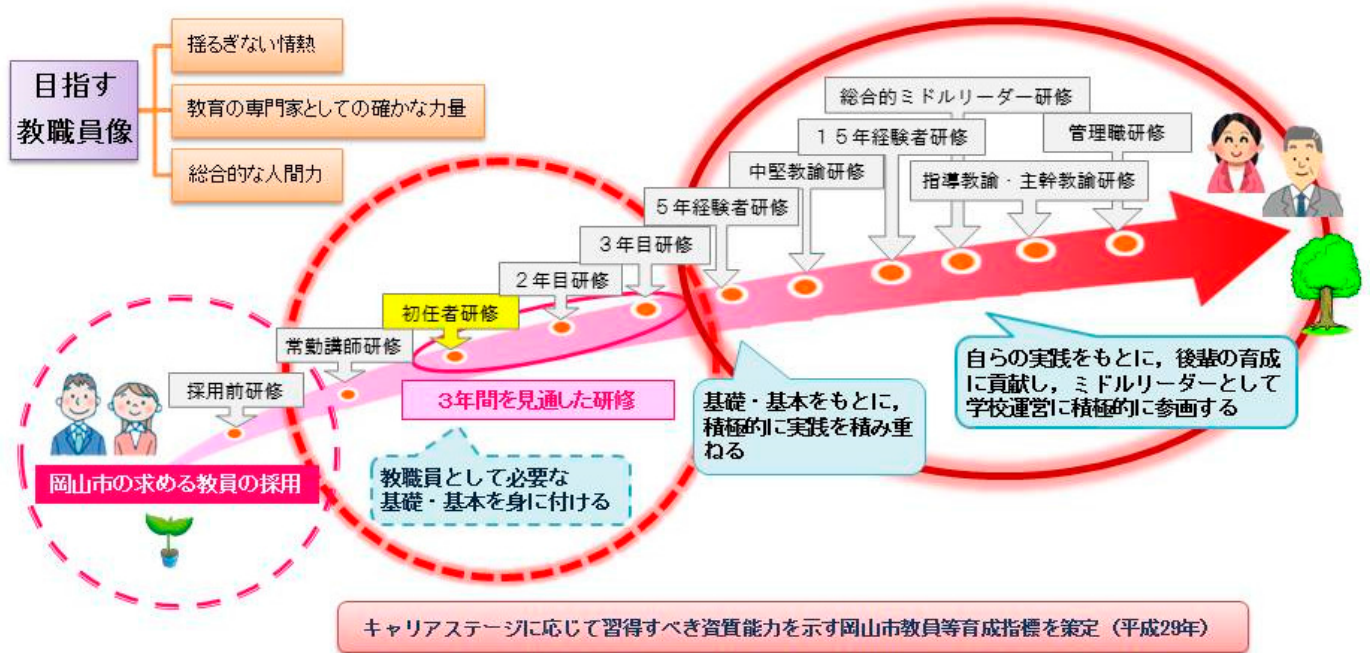
岡山市では学校教育にのみならず、社会教育などのあらゆる教育活動においてESDの視点を生かした取り組みを行っています。子どもたちをはじめ多くの人々が学校や地域社会において環境や平和、文化、人権など身近な課題を主体的に探究する中で、人間としてより良く生きること、社会をより良いものにしていくことを学んでいます。

学校教育では、計画されている各教科等の学習を、地域社会においては身近な地域課題を、ESDの視点で総合的につなげ、継続して取り組むことで、学びの質が高まり、問題解決力やコミュニケーション力など未来をより良いものにしていくために必要な資質能力を身に付けることができます。

岡山市に暮らす人々が、ESDの視点での学びを通して、持続可能な社会の担い手として成長していくことを目指します。



教職員の資質向上



具体的には、教職員としての資質向上のために、採用前に行う研修をはじめ、常勤講師を対象とした研修や経験年数別の研修などで学ぶことができます。

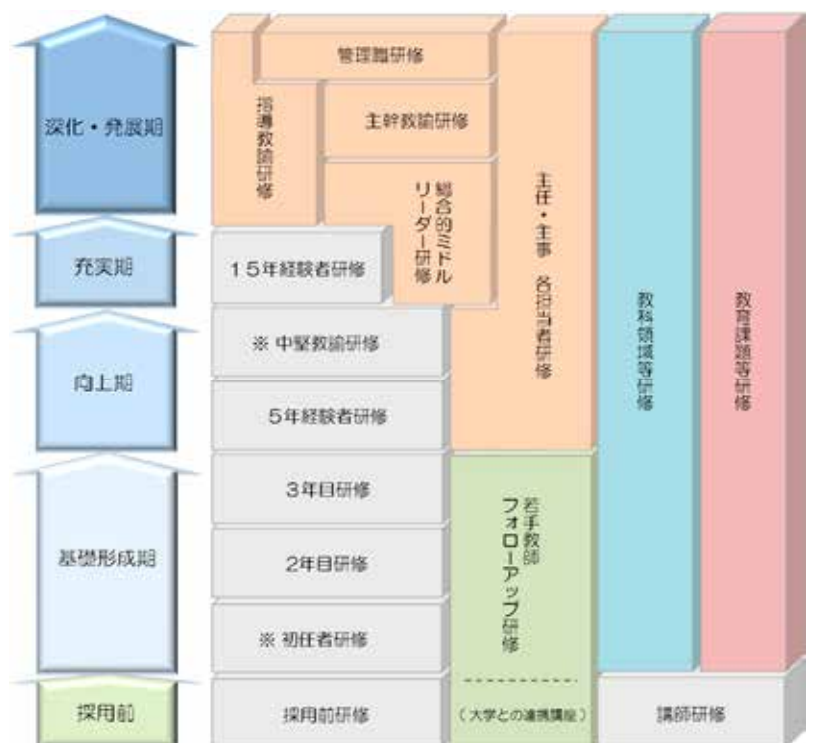
経験年数別の研修では、「岡山市教員等育成指標」にもとづき、講義や協議、演習を通して、それぞれの経験年数で求められる資質・能力を身に付けていきます。

初任者研修から3年目研修までを主に学習指導や生徒指導の基礎を学ぶ期間とし、3年間を通して教職員として必要な基礎・基本を身に付けるための研修を行います。

3年間で身に付けた基礎・基本を生かし、資質能力のさらなる向上に向けて、学び続ける教職員を支える仕組みがあります。

岡山市では、採用後の1年目から3年目を「基礎形成期」、4年目から10年目を「向上期」、11年目から15年目を「充実期」、16年目以上を「深化・発展期」と位置づけ、それぞれの経験年数に応じた研修ステージを計画・実践しています。

<岡山市の研修ステージ> 平成30年度



### 採用前研修

次年度の岡山市立学校園教員等採用候補者として登録された方のうち、参加を希望する方を対象に開設しています。この研修では「最初の2週間で大切にしたいこと」、「夢や不安を語り合おう」等をテーマにグループ協議等も行います。採用前の2月、3月に同期の仲間とつながることで、新規採用教職員として迎える4月からの円滑なスタートに備えることができます。

### 初任者研修

教員としての最初の1年間を特に研修を重視する期間として実施している研修です。校内研修では、日常の教育活動を通してベテランの先生から指導を受けながら、実践的指導力を学びます。校外研修では、当面する教育課題及び教育技術に関する講義・演習や他校での授業参観等、種々の関係機関での研修を行います。

初任者研修は4月から始まります。授業づくりを支える教材研究の仕方、指導方法、授業展開、支援の在り方等、よりよい授業づくりのポイントについて学んだり、年間を見通した学級経営（当番活動、係活動、教室環境づくり、保護者との連携等）の在り方について学んだりします。同期とのつながりを大切にしたい宿泊研修を含め、年間約20日の校外研修を行います。また、校内の先輩教員や初任者の指導を専門とした拠点校指導教員とともに、日常の教育活動を通して実践的指導力を高める校内研修を年間通して行い、岡山市の教員として求められる力を身に付けていくことができます。



接遇



学習指導



宿泊研修

### 充実したサポート体制

採用前研修や初任者研修講座の他にも若い先生を支える研修講座等を多く開設しています。

#### その1 2年目研修・3年目研修

2年目研修、3年目研修の中で、授業づくりの基礎・基本についての講義・演習、学習指導案の作成等により、系統的に授業力の向上を図っています。

2年目研修では、初任研で学んだ学習指導における基礎的・基本的な考えを深めていくことを通して、指導力の向上を目指します。

3年目研修では、自身の授業実践を振り返り、協議で授業改善について多くのヒントを得ることができます。

#### その2 若手教師フォローアップ研修

常勤講師及び5年経験者研修前までの教諭を対象に、教科指導等の内容について細分化・専門化し、教員としての資質能力の向上を狙いとした研修です。

【例】小中学校の各教科、小学校外国語活動、道徳、特別活動、授業でのICT活用 など

#### その3 教科領域等研修

各教科等での授業づくりの基礎・基本の定着とともに、教科・領域の特性を生かした授業の在り方や指導方法の工夫等を学びます。

一人一人の課題や深めたいことに応じて研修を選択することができます。

【例】小中学校の各教科、小学校外国語活動、道徳、特別活動、総合的な学習の時間 など



その4 **教育課題等研修**

各種教育課題の解決に向けての知識技能等の充実、向上をねらいとした研修で、一人一人のニーズに応じて研修を選択することができます。

【例】集団づくり研修、生徒指導研修、特別支援教育研修、人権教育研修、情報教育研修 など

その5 **映像資料『おかやまの教室』を使って学ぶ**

「子どもの言葉でめあてを引き出す授業をしたい。」「机間指導では、具体的にどんな言葉かけをしたらいいの。」といった疑問をもつ若手の先生方の授業づくりに役立つ映像資料です。豊かな実践に基づいたベテラン教員からの提案がたくさんつまっています。

映像資料を活用して、自分の時間を有効に使って学ぶことができます。



その6 **ティースプーン**

ティースプーンとは、先生方のちょっとした相談や学びの時間です。

木曜日18時から教育研究研修センターで先生方の希望に沿って内容を決めて実施しています。

※「ティースプーン」は、茶さじ1杯分の小さな取り組みを積み重ねることが資質能力の向上につながるという意味を込めて名付けています。

初任者研修を終えて

初任者研修はかけがえのない学びに

宇野小学校 | 池田 和樹 教諭(5年担任) | 平成29年度採用

憧れの教員として働き始め、やりがいのある日々を送っていたものの、授業や学級経営に関して「これでいいのだろうか」と疑問を感じていた私にとって、初任者研修はかけがえのない学びになりました。

校内研修では、先輩の先生方から授業づくりや学級経営について学ぶことができました。どの先生も分からないことや悩んでいることに対して、的確にアドバイスをしていたので、前向きな気持ちで子どもと関わることができました。

校外での研修では授業参観やグループ協議を通して、実践的な指導力を身につけることができました。また、同期の仲間と絆を深め、支え合いながら成長できることも、魅力の一つです。

研修での学びを日々の実践に生かして、子どもが成長する姿や笑顔になった瞬間を見ることができたとき、教員になって本当によかったと思います。これからも子どもたちのために、学び続け、教師としての魅力を磨いていきたいと思っています。



新採用の1年目は充実した1年間だった

興除中学校 | 佐藤 葵 教諭(2年担任・英語) | 平成29年度採用

初任者としての1年間は私にとって、教員生活のスタートである大切な1年間でした。新しい環境に日々戸惑いを感じながらも、中学生の頃からの夢だった「教師」という仕事にやりがいを感じる毎日でした。初めて担任としてクラスをもつと、生徒とともに喜怒哀楽をともにする場面の連続で、あっという間に1年が過ぎたように思うほど、非常に充実したものになりました。その経験の中で、私は「信頼関係」の大切さを学び、生徒や保護者の方との「信頼関係」から生徒たちの新しい姿を発見できることを実感しました。

また、先輩教員から頂いた「やりたいことに挑戦して、どんどん失敗したらええよ。」という言葉が私にとって力になり、生徒のために精一杯できることをする教員になりたいという覚悟ができた1年間でした。中学生にとって大切な3年間が充実したものになるよう、日々自己研鑽をし、私自身も成長していきたいと思っています。



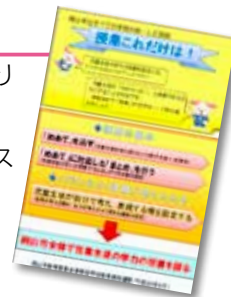
**学力向上推進プロジェクト**

自ら考え実践する確かな学力の育成を目指し、子どもたちの主体的・協働的な学びに向けた授業改善やきめ細やかな支援による、発達段階に応じた段階的な指導を行っています。

授業研究の推進

**授業これだけは！**

- 岡山市すべての学校、すべての先生が、子どもが「力がついた」と実感できる授業づくりの基本「授業これだけは！」に取り組んでいます。
- 「めあて」を示すこと、「めあて」に対応した「まとめ」を行うこと、考える場をバランスよく取り入れることで授業の質の向上を目指しています。



**中学校区を単位とした授業研究支援事業**

**「子どもが輝く学びづくりプロジェクト」(まなプロ)**

- 中学校区ごとに、学校園が協力して保育・授業の研究を行い、よりよい保育・授業づくりを進めます。
- 校種を超えて、授業公開と協議を定期的に行います。

**学力向上プロジェクト(GKP)**

- 学校現場の思いとアイデアを基に授業づくりの学習会を開催します。
- 授業の中で大切にしたいことを模擬授業や協議を通して共有し、若手の先生方の授業力アップを目指します。

**指導教諭の活躍**

- 学力向上の優れた実績を広め、指導教諭による授業公開をするとともに他の教員の授業づくりを支援します。

**全国学力・学習状況調査**

- 4月に実施する全国的な調査です。
- 小学校6年生と中学校3年生を対象に、国語、算数・数学と質問紙による調査を実施します。  
(3年ごとに理科を実施)

	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
H30	50	50	49	50	50	49	49	49
H29	50	51	50	50	49	49	49	49
H28	49	50	50	50	48	48	49	48
H27	49	50	49	50	49	48	49	48

**岡山市学力アセス**

- 4月に実施する岡山市独自の調査です。
- 小学校4・5年生と中学校1・2年生を対象に、国語、社会、算数・数学、理科、英語(中学校のみ)と質問紙による調査を実施します。
- 学校ごとに調査結果の分析を通して、児童生徒の「つまずき」を把握し、よりよい授業づくりを進めます。
- 岡山市の教員が問題作成に関わり、子どもたちの課題にマッチした問題を作成します。
- 問題作成を通して、人材育成を図ります。



**自主学習ソフト**

- 生徒一人一人の自主的な学習を支援するソフトを全中学校へ導入しています。
- 先生の授業や家庭学習用の教材作成をサポートします。

**家庭学習これだけは！**

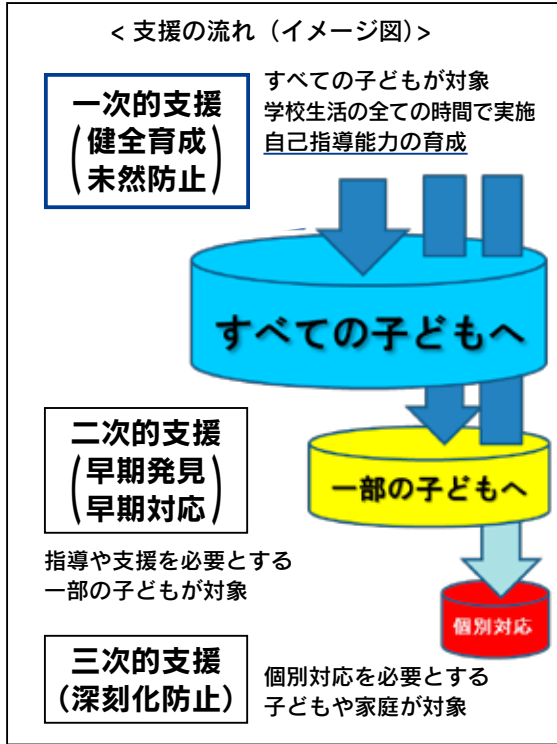
- 児童生徒の家庭学習の充実のために、「つながる」をキーワードに市内の学校のよい取り組みを収集し定期的に配信しています。



学力調査の効果的な活用

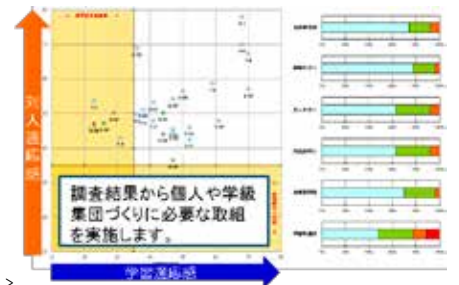
**日常の活動すべてを通して行う生徒指導の充実**

学校問題の解決に向けて、事後対応（三次的支援）に追われるのではなく、すべての子どもの指導を通して、問題行動等を生みにくい学校環境づくり（一次的支援）や早期発見による対応（二次的支援）に重点を置いて取り組んでいます。



**共に成長し合う学級集団づくり推進事業**

学級環境づくりでは、学級適応感を測る質問紙調査（hyper-QU、ASSESS）を活用した取り組みを進めています。



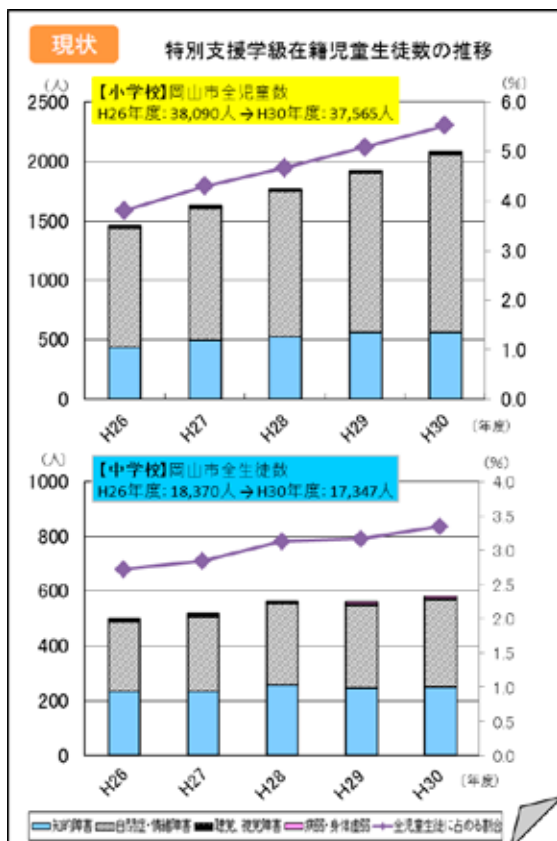
**ストップ・ザ学校問題-学びの場充実事業-**

二次的、三次的な支援として、スクールカウンセラーや不登校児童生徒支援員の配置、教育相談室や適応指導教室での相談や支援等を行っています。

**学校問題解決サポート事業**

さらに、学校だけでは解決困難な学校問題について、サポートチーム（弁護士や精神科医等の専門家）による助言・支援等を得ながら解決するとともに、教職員研修等をおして、学校の対応力の向上を図っています。

**全ての教職員で行う特別支援教育の推進**



**共生社会の実現に向けた特別支援教育**

- **学級づくりや授業を通じた特別支援教育**  
通常の学級の中で、特別支援教育の視点を生かした取り組みを進めます。
- **適切な就学相談の推進**  
子どもにとって適切な学びの場について相談します。
- **教職員の指導力の向上**  
校内研修、研修講座などで学びの機会をつくれます。
- **校内の支援体制づくりや環境整備**  
特別支援コーディネーターを中心として、体制づくりや環境整備を進めます。

**共に生きる子どもを育てる障害児支援事業**

- **特別支援教育の視点を生かした授業づくり**  
研究指定校の研究成果を市内教職員へ啓発します。
- **特別支援教育支援員配置事業**  
特別支援教育支援員を配置し、学校の支援体制を充実します。
- **特別支援教育相談窓口**  
相談窓口では、学校からの相談に対応します。  
また、専門相談員（医師、大学教員、特別支援学校コーディネーター等の専門家）が学校に対して、指導・助言を行います。



**ワークライフバランス ～働き方の改革～**

「ワークライフバランス」とは、仕事と生活の調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のことです。

岡山市では、学校園の閉庁日や定時退庁日の設定、休暇の取得促進を行うことにより働きやすい職場づくりに努め、ワークライフバランスの実現を目指しています。また、校務支援システムの導入やアシスト職員の配置など、教職員のサポート体制を充実させ、教職員が働きやすい環境整備に努めています。

**学校業務アシスト職員の配置**

小中学校において、教員の事務処理等の業務軽減と、児童生徒と向き合う時間の充実を図るため、教員が行っている専門性を必ずしも必要としない事務処理等の一部を軽減するため、全小中学校にアシスト職員を配置しています。

アシスト職員が、教職員が行っているプリント類の印刷や集配物の点検、諸データの入力などを代行したり、教材作成のサポートなどを行ったりすることで、教職員の子どもと向き合う時間の増加や、負担感の軽減につながっています。

**部活動指導の充実と教職員の負担軽減**

中学校、高等学校において、部活動指導の充実と教職員の負担軽減を図るため、部活動指導員を配置し、専門性を生かした指導を行うとともに、部活動指導員が部活動の指導や大会等への引率を行うことができるようにしています。

また、週2日以上 of 休養日を設定し、活動時間も平日は2時間程度、休業日は3時間程度を目安とするなど部活動のガイドラインを定め、生徒の健康面への配慮や教職員の負担軽減に取り組んでいます。

**ICT環境の整備**

校務の情報化・効率化を図るため、校務用パソコンを配備し、校務支援システム（成績処理、児童生徒出欠管理、健康診断データ管理、校内・市内学校連絡機能等を有したシステム）の運用を行っています。教職員が行っている事務処理をデータ化することで、負担感の軽減にもつながっています。

また、「岡山市教育ポータルサイト」を開設し、教材や研究資料の提供や参考となる教育コンテンツを学校間で共有し、教育の質の向上を図っています。

**学校支援ボランティア**

学校園や地域での教育活動や環境整備などの取り組みに対して、学生や保護者、地域住民の様々な特技や趣味などを活かして支援しています。また、大学等と連携して学生ボランティアを組織化して支援するモデル事業を実施しています。

登下校の見守りや放課後の補充学習、児童生徒の個別支援などを行うことで、子どもたちの安全・安心や学力の向上などに寄与するだけでなく、教職員の負担軽減にもつながっています。学生が組織する「学習活動サポーターズ」の取り組みも、学校の教育力の向上や学生のスキル向上につながっています。

**定時退校日の設定**

教職員の定時退校日を設定することなどにより、教材研究や研修等を行う時間を確保するとともに、教職員のワークライフバランスの実現に取り組んでいます。定時退校日には、教職員も様々な余暇活動を計画するなど、心身のリフレッシュにもつながっています。

このように、教職員自身が働き方についての意識改革を行うことも必要と考えています。

**学校閉庁日の設定**

8月13日から15日を学校園閉庁日とすることで、教職員の心身の健康維持・回復を図り、園児、児童生徒に対する教育を充実させています。

また、長期休業中には、夏季休暇や年次休暇等を計画的に取得することができます。教職員の心身のリフレッシュは仕事の能率アップや学校教育の充実にもつながります。

**長期休業中を活用したワークライフバランス**

教職員の週休日は、土曜日、日曜日、祝日、年末年始です。土曜授業や学校行事等で週休日に勤務がある場合は、長期休業中等に週休日の振替えを行います。

また、長期休業中は、夏季休暇や年次休暇を計画的に取得することができます。学校に勤務する教職員は、子どもたちの学校生活を中心とした勤務のため忙しい時期もありますが、長期休業中に年次休暇や特別休暇によるまとまった休暇を取得して心身のリフレッシュを図ったり、または見聞を広めたり自己研鑽に励むなど、1年間を通して仕事と生活の調和を計画立てた生活を行うことができます。

この他にも、行事の精選・見直し、職員会議などのスリム化など、各校の実態に合わせた教職員の負担感の軽減に努めています。